

平成29年度 第1回半田市地域公共交通会議事録

開催日時	平成29年6月22日(火)	10時00分～11時30分
開催場所	半田市役所4階 大会議室	
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 自己紹介</p> <p>4. 報告事項</p> <p>(1) 半田市地域公共交通網形成計画及び再編実施計画策定支援業務委託について</p> <p>(2) 半田市地域公共交通対策事業計画について</p> <p>(3) 地域公共交通市民懇談会について 【資料1】</p> <p>5. 協議事項</p> <p>(1) 公共交通再編の方向性について 【資料2】</p> <p>6. その他、情報交換</p>	
出席委員 【欠席委員】	<p>(会長)</p> <p>半田市 副市長</p> <p>(委員)</p> <p>知多乗合株式会社取締役バス営業本部長</p> <p>安全タクシー株式会社代表取締役(代理 業務部長)</p> <p>【愛知県タクシー協会知多支部長】</p> <p>【公益社団法人愛知県バス協会専務理事】</p> <p>国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官</p> <p>名鉄知多タクシー労働組合執行委員長</p> <p>愛知県知多建設事務所維持管理課長</p> <p>愛知県半田警察署交通課長(代理 交通課規制係警部補)</p> <p>亀崎地区代表区長</p> <p>乙川地区代表区長(代理 乙川東区区長)</p> <p>半田地区代表区長</p>	

	<p>成岩地区代表区長</p> <p>半田商工会議所福祉共済課長</p> <p>社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長</p> <p>半田市老人クラブ連合会会長</p> <p>特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長</p> <p>一般市民（市民公募）</p> <p>名古屋大学環境学研究科教授</p> <p>半田市総務部長</p> <p>半田市建設部長</p> <p>半田市市民経済部長</p> <p>半田市福祉部長</p> <p>半田市議会議員</p> <p>名古屋鉄道株式会社中部支配人（代理：中部支配人室営業総務課長）</p> <p>愛知県振興部交通対策課主幹</p>
事務局	<p>防災監 齊藤清勝</p> <p>防災交通課 副主幹 間瀬恒幸、事務員 大岩亮太</p>
傍聴者	9名

次 第	議事概要
2. あいさつ	<p>（会長あいさつ）</p> <p>半田市の地域公共交通会議は昨年1月に第1回を開催しました。その後、視察や地域の皆さまとの懇談会などを交え、本日で通算5回目の会議となりました。</p> <p>本日の会議は、次第にありますように半田市地域公共交通網形成計画や再編実施計画など、いよいよ会議の中心となる部分に議論が進んでいきます。</p> <p>日常生活の中で使いやすい、お出かけしやすい交通網を創っていきたいが、車両など費用対効果も議論していきたい。</p>

	<p>後程、説明もありますが、市内5地区で市民の皆さまとの懇談会を計画しています。その場で、市民の皆さまから様々な意見をいただきたいと考えています。</p>
<p>3. 自己紹介</p>	<p>(事務局)</p> <p>本日の会議から、半田市福祉部長を新たに選任していただいた。また、人事異動などで、前任の方から引き継ぎ委員を担っていただく方もいますので、名簿の順に自己紹介をお願いします。</p> <p>【自己紹介】 ※所属、お名前のみ</p>
<p>4. 報告事項(1)半田市地域公共交通網形成計画及び再編実施計画策定支援業務委託について</p>	<p>(事務局)</p> <p>半田市地域公共交通網形成計画及び再編実施計画策定支援業務について、4月26日にプロポーザル審査を行いました。</p> <p>プロポーザル審査では、各社に委託業務の企画提案書及び委託金額の見積書を提出していただくとともに、プレゼンテーションを20分間、その後の質疑を10分間行いました。</p> <p>その結果、「(株)国際開発コンサルタンツ 名古屋支店」さんが受注候補者として決定し、本事業について契約いたしましたのでご報告いたします。</p> <p>今後、公共交通の計画策定に向け、国際開発コンサルタンツさんに支援していただきます。</p>

(2) 半田市
地域公共交通
対策事業
計画につい
て

(事務局)

本年3月の平成28年度第3回地域公共公会議にて、ご承認いただきました「事業計画書」になります。本会議から新たに委員になられた方もいますので、簡単に説明させていただきますと、本年度は、まず半田市地域公共交通網形成計画の策定をします。網形成計画の策定に向け、主要集客施設の調査や市内5か所において、地域公共交通市民懇談会を開催します。

また、網形成計画策定後には、再編実施計画の策定に着手しますが、平成30年10月の路線バス実証運行に向け、運行計画の素案も策定いたします。

(会長)

以上、2つの報告でご質問等はありませんか。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

非常にタイトなスケジュールになっていることを、委員の皆さまにも認識していただきたい。

網形成計画と再編実施計画策定の、おおまかなスケジュールを教えていただきたい。

(事務局)

今年の3月の公共交通会議でスケジュールをお配りしていますが、網形成計画の策定期間につきましては、素案を本年9月頃に作り、パブリックコメント等を経て、本年度中に策定します。その後、再編実施計画の策定作業に入りますが、平成30年10月頃を目指して進めていきたい。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

実証運行が30年10月になっていますが、再編実施計画を10月に策定するという事は、実証ではなく本運行になってしまう恐れもあるので、その点もご注意いただきたい。

(事務局)

それらも含め、ご教示ご支援いただくなか進めていきますのでお願いします。

(名古屋大学環境学研究科教授)

公共交通に関する調査はある程度終わっている。それを踏まえ7、8月に懇談会を行います。

9月の会議では、もう少し具体的な路線を描いて、皆さんにお諮りいただく。それに並行して、タクシー事業者やバス会社とも議論を進めます。

このまま順調にいくと、本年末に公共交通網形成計画が策定できます。遅くても、年度末までには策定したいと考えています。30年10月からの補助を受けるために、来年の6月末には、路線の詳細を決めたい。

再編実施計画については、交通事業者との調整もあります。来年10月の実証運行は、できるところからの一部になるのか、全部になるのかは、現段階では分かりません。

できるところの路線だけを実証運行するのであれば、この時点で再編実施計画を策定することが良いのかどうかを判断しかねている。

再編実施計画は、計画策定後5年間は路線を変えられないという決まりがあるが、本省には、この決まりを変えていただきたい旨を申し入れしています。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

再編実施計画を策定すると5年間路線を、ほぼ変えられないという厳しいルールがあります。

気になるのは、平成30年10月にスタートとなるのか、31年4月がスタートとなるのか。平成30年10月にスタート

するとなると、かなりタイトなスケジュールになります。

私個人としては、30年10月に調査的な運行をして、31年4月に一斉に本運行として進めた方がいいのではないかと感じています。

(名古屋大学環境学研究科教授)

半田市の場合は、会議が始まった時から30年10月に一つの目途として運行して行こうと考えているので、弾力的になりますが、ある程度再編を行っていききたい。

来年の今頃の会議には、路線が概ね決まっているということを目指して進めていききたい。

この一年間で、再編する路線について事業所や地域の皆さまにご理解いただき決めていききたい。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

再編実施計画は、国の認定を受けていく予定ですか。

(事務局)

国の認定を受けていききたいと考えています。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

国の認定のハードルも高くなってきていることをご理解いただきたい。

(市民公募委員)

網形成計画は、どのようなことが記載されるのでしょうか。

(事務局)

9月頃に網形成計画の素案をお示ししますが、路線の基幹、

支線の概念図をお示ししていきます。

(市民公募委員)

7, 8月に市民懇談会を行うということですが、具体的な路線の提示が無い状態で、意見を求められても、あまり意見がでてこないのではないのでしょうか。

もう少し具体的な路線を提示できる段階で行った方がいいのではないのでしょうか。

(事務局)

公共交通ネットワーク形成の方向性と概念図をお示しするなかで市民懇談会を行いたいと思っています。

(会長)

具体的な提案がないと意見が言えないということも、おっしゃる通りですが、具体的な素案を創るにあたって、まずは地域の意見をいただき、網形成計画を策定していきたいと考えています。第一段階だということをご理解いただきたい。

<p>(3) 地域公共交通市民懇談会について</p> <p>【資料1】</p>	<p>(事務局)</p> <p>昨年度は、区長さんにご協力により参加していただける市民を選任していただき、市内13小学校区において、グループヒアリングを行いました。その際には、名古屋大学の加藤先生に、すべての場所で、地域公共交通についてお話しいただき、地域の皆さまから、ヒアリング形式で公共交通についてお聞きしました。本年度は、市内5か所において、「地域公共交通市民懇談会」をお手元の資料2のとおり開催いたしますグループヒアリングと大きく異なるところは、どなたでも参加できることやヒアリング形式ではないことです。</p> <p>まず、加藤先生に、地域公共交通についてお話しいただきます。</p> <p>加藤先生のお話しの後に、本日、ご協議いただく「半田市の公共交通再編の方向性」について、説明させていただき、皆さんから、ご意見ご要望をいただくといった場になります。</p> <p>一人でも多くの方に参加いただきたいと思っておりますので、委員の皆さまにも、SNS や口コミなど、拡散していただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>加藤先生は最近でも北海道や東京でも講演をされており、非常に忙しい中でもこの半田の5地区で話されるということは、非常に感心したところであります。</p>
---	---

(名古屋大学環境学研究科教授)

グループヒアリングは、無作為の 10 人ぐらいで公共交通についてどう考えているのか議論して、それぞれの地区から見るとどんな交通があると、地域の皆さんも納得してある程度乗っていただけるかなというのを組み立てるためにやりました。

今回は、誰でも聞けて、私の方から説明して、皆さんに考えていただいて、それから認識していただきたいです。だけど認識するだけでなく、意見を出していただくとか、場合によっては参加していただく必要があります。

山車という言葉を上げていますが、いろいろなところでやられている地域主体の山車を走らせるお祭りを、半田は山車を地域で維持しながら行われているわけで、バスだって人が乗って毎日走る山車だと考えたら、半田では受け入れられるのではないかな。市役所がやるべきことを地域にやらせていると思われるかもしれませんが、実はそうでもなくて、地域の皆さんに考えてもらおうと、逆に難しいことも生じるし、場合によっては地域によって差があるので、それをどうしていくのかも考えないと良くなりません。

資料 2 にあるような、幹となる交通機関はこういうのが必要じゃないかということ、各地域でどう公共交通のことを考えていくかというきっかけづくりとなればいいと思います。

次回ぐらいに素案が出てきますが、特に基幹となる路線については 3 月までに固めていきたいので、もう 1 回住民の皆さんのご意見を伺うというか話し合う機会があります。その時は、より細かくどこを通るだとか、どんなダイヤ、1 時間に 1 本か 2 本かというところまでも含めて議論して、遅くとも 3 月に固めていきます。

各地域の路線は、地域の皆さんで話合いが早ければ、やっていけばいいです。まとまらない所は遅くなるかもしれません。

皆様のご意見がその段階でうまく入るように進めていこうと考えています。今回はどちらかという皆さんに、こういう考えでこれから市が進めていこうとしているので、この段階では、ご意見を頂けますかというところだと考えていただければいいかと思います。

(市民公募委員)

スマホをもっている方が大勢いるので、SNS でも見れるかと思いますが、半田市の広報か何かで出すんですか。

(事務局)

ホームページもありますし、市報にも上げてまいります、地域にご協力いただきながら、くまなく皆さんの眼にとまるようにやっていきたいです。

(会長)

夜の会議、午前の会議、午後の会議と時間もそれぞれ分けてございますので、ぜひご参加をいただきたいと思います。

(社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長)

最初チラシのタイトルを見たときにコミュニティバスが走るのかなと思いました。公共交通バスのことをコミュニティバスという総称で言うのかなと思いました。

(事務局)

公共交通全体のことを、みなさんから意見をいただきたいと思っております。身近に感じるような名前にしました。おっしゃるとおり、中身と少しギャップがあるかもしれませんが、関心をもっていただくためにこういった名前にしました。

(名古屋大学環境学研究科教授)

ここでいうコミュニティバスは、路線バスとかではなく、この公共交通を地域にきちんと取り戻して、地域の皆さんで考えるものとしてやっていこうという意味です。普通にコミュニティバスと言ったら知多バスさんとかJRさん、名鉄さんの路線はあるけど、それだけじゃカバーできないんで市がお金を出して走らせるバスを想像するかもしれませんが、そうじゃなくて、知多バスさんの路線をわれわれの眼で見て、こういう風だったらもっと盛り上がるよねっていうことをやっていく。さらに地域でもきちんと考えて、また新しい路線を作っていこうと考えてもらいたいです。

(会長)

ご意見いただいたので、このタイトルのところは、今回行う懇談会の実態にあったタイトルにして、知恵を絞って変更して下さい。

(名古屋大学環境学研究科教授)

どなたも、どこの地区でも出られるということでもいいですか。

(事務局)

便宜的に地域分散していますが、市内どこの会場でご参加いただいても、あるいはすべてにご参加いただいてもけっこうです。また改めてご案内は致しますが、お誘いあわせでご参加いただければと思います。

<p>5. 協議事項</p> <p>(1) 公共交通再編の方向性について</p> <p>【資料2】</p>	<p>(会長)</p> <p>これから地域交通の再編を考えていくうえで、どういうポイントに焦点を当て交通網を考えていくのかという大きな柱建てとして、5ページの4点を一つの視点として市内全域を考えていきたいというものです。少し前ですけど、有脇は東浦ですよねと言われたことがあります。半田市は市の一体性を人が自由にその間を移動できるネットワークで結ばないと、二分化していくと思ったことがあります。一体性をつなげていくための血流となるのが、これから考えていただきたい公共交通網だと思っております。最初に市域の一体性という言葉をここで考えたのはそういった思いもこめています。</p> <p>(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>4ページに都市計画マスタープランのことがありますが、同じような計画として、立地適正計画がありますが、これは今どういう状況ですか。</p> <p>(建設部長)</p> <p>今のところ半田市としては、都市計画マスタープランの改訂が平成32年であり、都市計画マスタープランの改訂に合わせて立地適正化計画も作ろうという考えです。</p> <p>(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>平成32年度まであるマスタープランをみて、今後作っていくかどうか決めるということでしょうか。</p> <p>(建設部長)</p> <p>そのとおりです。</p>
---	--

(名古屋大学環境学研究科教授)

立地適正化計画は、簡単に言うと、これからは人口が減っていくのでここはなるべく住まないとか、こういうところには公共施設はおかない方がいいと決める計画です。いきなりは無理なので、何十年とかの内に進めることになります。なるべく人が集まり、これからも住んでいく所は、公共交通がある方がいいということを行っています。なので、地域公共交通網形成計画と立地適正化計画は、国交省の中では一体として考えられています。

半田は、今の公共交通網前提で考えたとしたら、求心力が弱いのです。だから、立地適正化計画は後にしか作れないと考えています。半田の場合は、公共交通の軸を固め、それを考えながらどこに集まっていったらいいか考えると思いますし、その進め方でいいと思います。

13 地区を回って改めて思ったのは、半田はすでにコンパクトです。有脇から花園へ行く用事があるのかというと、現状ではほとんどないです。ただ、それぞれの所で住んで暮らしているだけだと本当に半田全体がばらばらになってしまいます。たまには他の地域の人とも交流して、半田全体で楽しい所にしていけたらどうか。そのために、バスで結んでいくということが大事ではないかと方針で出されていると考えています。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

まちづくりと一体というところで、都市計画マスタープランの地域拠点と6ページの概念図を照らし合わせますと、既に一致している状況でして、立地適正化計画がなくても方向的にはまちづくりと一体となって作っていくことはわかります。

<p>6. その他、情報交換</p>	<p>(特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長)</p> <p>観光施設を結ぶ公共交通サービスの構築というのを入れているだけで、非常に感謝するとともに、やっぱり半田の観光施設というのが地域住民というか、市民の方の力を周辺で借りながら運営しているというのが大半だと思います。新美南吉記念館だけを訪れるのではなくて、景観整備が進んでいる所などがベストの観光地だと思っております。観光ガイドボランティアも高齢化になってきて、活動地までの移動手段も含めて考えていくところがあると感じております。ぜひ住民懇談会等にそういう活動をする方に出ただけけるよう、私どもも取り組んでいきたいと思っておりますので、公共交通を考える場についても、一緒にやらせていただけたらありがたいです。</p> <p>(事務局)</p> <p>観光地を巡る公共交通は、必ずしも半田市以外の外から見えるお客様のルートではなくて、私ども半田に住んでいる市民にとっても、例えば新美南吉記念館に行こうと思っても、車がなければなかなか行きづらい。赤レンガで一杯ビール飲みたいと思っても車で行ったら飲めない。そんなことを思うとこのルートは市民にとっても望んでいることだと思っております。</p> <p>(愛知県交通対策課)</p> <p>今後の検討にあたって、広域的な視点もぜひ含めながら、隣接市町との関係とか、そういったところも視野に入れながら議論していただければと思っております。</p> <p>チラシの説明させていただきたいと思えます。</p>
--------------------	---

愛知県では車と公共交通、自転車、徒歩などを賢く使いわけ
るライフスタイルということで、エコモビリティライフ、略し
てエコモビと称して、そういった活動を県民運動として推進し
し、主旨にご賛同いただける企業とか各種団体方と協議会を
作ってその推進を進めているところです。そうした活動としま
して、チラシの中ほどにエコモビの普及計画、エコ通勤、エコ
通学、公共交通の利用促進、あるいは自転車の利用促進といっ
たエコモビの推進、積極的かつ効果的に行っている団体を表彰
するというので、平成 24 年度からこの表彰制度を実施して
いるところです。今年度につきましては、8 月 2 日まで候補団
体を募集しているところでございます。ぜひ、皆様方から見て
こんな団体がありますよとか、あるいは自分達でこんなことを
やっていますよということで、主旨にマッチする団体がござい
ましたらぜひご応募いただきたいということで、関係の皆様
にご周知もしていただければと存じます。受賞団体が決まりまし
たら、11 月 8 日にエコモビリティライフ県民の集いという行
事を予定しておりまして、その中で表彰式を行う予定としてお
ります。県民の集いでは関連の講演会など行う予定ですので、
ぜひご参加いただきますようよろしくお願い致します。

(会長)

このチラシをご覧になって、こんな団体があると思われる方
がお見えになりましたら、公共交通係の方にその旨一言お話し
ただければと思います。

(事務局)

5月3日に、亀崎潮干祭に行きも帰りもバスで行って参りました。こんなにバスに乗れるのかというぐらいお客様がいっぱいで、また帰りは非常に楽しい思い出がたくさんあります。当然市域外からお見えになるお客様が非常に多ございました。どうしてもいつもと違うルートを少し走りましたものですから、どこで降りたらいいんだろうとか、細かいお金がなくてとか、1人1人運転手のすぐ横に立っていて、その対応する瞬間がとっても楽しかったです。本当に乗って楽しくて、降りても楽しいバスを作っていかなくちゃいけない、公共交通はこのレベルまであったらいいと感じておりました。

毎週時間があればバスに乗るようにしています。ここは乗ってこないだろうという所から乗ってくるお客様とか、たまたま一緒に降りるお客様とちょっと話をしてみたりとか、知多半田の乗り継ぎの話を少しさせてもらったりとか、そういう話ができるようになりました。これからは地域に入っていくので、地域で本当にこの人だったら牽引してほしいという方がお見えになったら、ぜひご紹介をいただきたいと思います。

幹になる路線は市がしっかりやっていき、どうしてもそこから抜けていく空白地域があるのは事実ですので、観光対応についても私どもできちんと整備をしていきたいです。

繰り返し言っていますが、今のバス路線でも市民の方々が年に1回乗っていただければ、運行経費が賄えます。今の事業費があればもっとバスが走れますが、そういうレベルではまだない。

タイトなスケジュールですが、月に1回みんなが乗れるバスをぜひ一緒に作りたいと思っておりますのでご協力をいただきたいと思います。

(名古屋大学環境学研究科教授)

広域的な路線について意見がありましたが、一応資料の6ページには、市内の皆さんからご意見をいただいた中で、北部というのは実は阿久比駅、あるいは東浦駅に対するニーズがあります。という中で特に有脇、乙川あたりは阿久比駅への需要が見込めるということで、そこに線が引いてあるということです。

東浦からは知多半田方面の需要は現状ではないですが、有脇の方は東浦駅というのは使いたいけど亀崎駅もいいということです。

ちなみに亀崎駅は半田駅よりも利用が多い駅です。ご承知のように亀崎駅前にはバスが入れない状況ですが、いろいろ工夫をしてここが拠点になるということも言っています。南の方は武豊がありますけど、半田の南の方の方に伺っても、武豊に行くことはあまり考えていないようですが、一方で武豊のバスはイオンの半田店まで来ています。武豊については半田に行きたいというニーズもあるようなので、武豊の皆さんと話をして、武豊のバスをどうするのかということも含めて検討していかないといけないと思っています。

国、県にお金を出していただいで維持している常滑線ですけど、板山あたりは、常滑からバスに乗って帰る方が多く、知多半田から帰る方より多いです。しかも常滑からのバスの方が最終バスは遅いです。これは先程の一体性から考えるとゆゆしきことで、できれば半田の方から帰っていただけるようにしていきたいです。そのために青山駅に乗り入れることで、この一帯の地区から、より早く名古屋や南の方に行けるようになります。現在は青山駅を経由せず、知多半田駅まで行く線が青山駅に入り、知多半田から市役所、半田病院まで来ている。ここにぜひ注目していただきたい。

板山地区からだと現状では知多半田までしか行けないけれど、JR 半田、市役所までのニーズがあるということでここも考えている案を提案しています。かなり広域的なことも考えながら、皆さんのニーズに応じていくことを考えています。あとは幹線で入っていない所について、それぞれの地域でどう考えて路線を作っていくのかが大きな課題だと思っています。それをがんばっていただき、武豊や南知多の団体のように公共交通の活動を表彰される人が出てくるといいと思っています。

(会長)

長時間にわたりましてご議論、ご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。これから、スケジュールを固めて具体的な実証運行まで参りたいと思います。何より市民が楽しいバス路線を作って参りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

以上をもちまして地域公共交通会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。